

【報道関係各位】

2019年1月17日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会 2019年 春の花粉飛散予測(第3報) ピーク予測を新たに発表 東京でのスギ花粉のピークは約一カ月間

- ◆2019年 春の花粉飛散予測のポイント(2019年1月17日 発表)
 - ・3月は各地でスギ花粉飛散のピーク 東京は多く飛ぶ期間が長い
 - ・花粉の飛散量は例年より多いが、広い範囲で前シーズン並みか少ない
 - ・2月中旬に、九州、四国、東海、関東地方の一部から花粉シーズンスタート

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、会長:石川 裕己)は、2019年1月17日(木)に全国・都道府県別の2019年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第3報)を発表します。また、詳細な情報を、「2019年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

各地のピーク予測

スギ花粉のピークは、福岡では2月下旬から3月上旬、広島・大阪では3月上旬、高松・名古屋では3月上旬から中旬でしょう。東京のピークは3月上旬から4月上旬となり、多く飛ぶ期間が長いでしょう。金沢と仙台では3月中旬から下旬にピークを迎える見込みです。

スギ花粉のピークが終わる頃になると、ヒノキ花粉が飛び始め、その後ピークが始まります。福岡では3月下旬から4月上旬、広島・大阪では4月上旬、高松・名古屋・東京では4月上旬から中旬でしょう。金沢と仙台では4月を中心にヒノキ花粉が飛散しますが、飛散量は他地点と比べると少ないため、はっきりとしたピークはない見込みです。

スギ・ヒノキ花粉の飛散量がピークになる時期は、花粉シーズン中の気温や予想される総飛散量と関係があると考えられます。2月、3月の気温は北日本では、ほぼ平年並み、東日本では平年並みか高く、西日本では高い予想です。スギ・ヒノキ花粉それぞれのピーク時期は、例年並みか少し早まる見込みです。

2019年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2019年1月17日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
大阪	スギ				■					
	ヒノキ							■		
広島	スギ				■					
	ヒノキ							■		
高松	スギ				■					
	ヒノキ							■		
福岡	スギ			■						
	ヒノキ						■			

 日本気象協会

2019年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

2019年1月17日発表

地点	種類	2月			3月			4月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙台	スギ					■				
	ヒノキ									ピークなし
東京	スギ				■	■				
	ヒノキ							■		
名古屋	スギ				■					
	ヒノキ							■		
金沢	スギ					■				
	ヒノキ									ピークなし

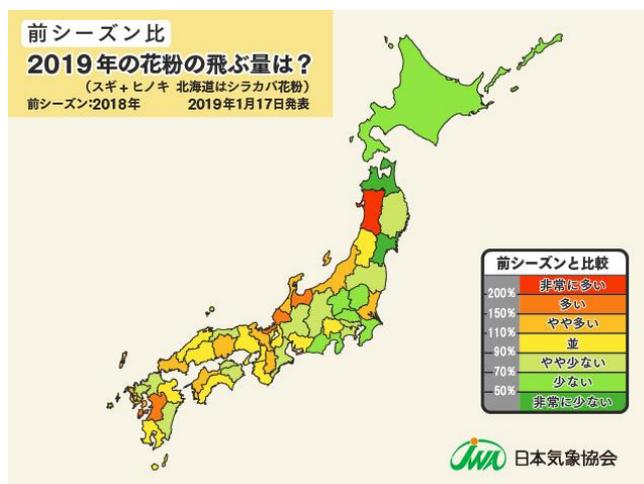
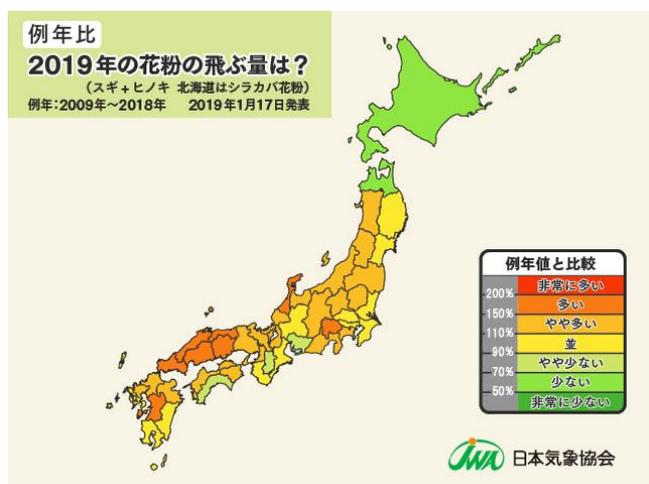
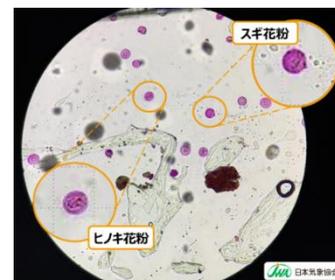
 日本気象協会

参考資料

1. 2019年シーズンの花粉飛散傾向

2019年春の花粉飛散量は、例年比でみると、東北から近畿でやや多い地方が多く、中国地方では多いでしょう。四国は例年並みで、九州は例年並みか多めとなりそうです。北海道は例年を下回るでしょう。一方で、前シーズンと比べると、北海道から関東甲信、東海は少ない傾向ですが、北陸では多いか、やや多い見込みです。秋田県では前シーズンの飛散量が少なかったため、前シーズンと比べて「非常に多い」予測です。

前シーズンの花粉の飛散量は、全国的に例年よりも多くなりました。前シーズンの特徴として、ヒノキ花粉の飛散量が多い傾向があり、東京ではヒノキ花粉が過去10年で最も多く飛散するシーズンとなりました(例年比約4.9倍、2017年シーズン比約4倍の飛散量、日本気象協会の観測地点調べ)。今シーズンの予測に向けて花芽調査を行ったところ、ヒノキの花芽の生育が前シーズンほどではないことが分かりました。このため、今年のヒノキ花粉の飛散量は前シーズンより少ないと予測します。



各地域の2019年シーズンの花粉飛散量

地方	飛散量				2018年夏の気象		
	例年比	地方平均値	前シーズン比	地方平均値	気温	降水量	日照時間
北海道	少ない	60%	少ない	50%	平年並	かなり多い	少ない
東北	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	平年並
関東甲信	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	かなり多い
北陸	やや多い	140%	やや多い	140%	かなり高い	平年並	かなり多い
東海	やや多い	110%	少ない	60%	かなり高い	平年並	かなり多い
近畿	やや多い	110%	前シーズン並	100%	かなり高い	かなり多い	かなり多い
中国	多い	160%	前シーズン並	90%	かなり高い	平年並	かなり多い
四国	例年並	100%	前シーズン並	90%	かなり高い	かなり多い	多い
九州	やや多い	130%	前シーズン並	100%	高い	多い	平年並

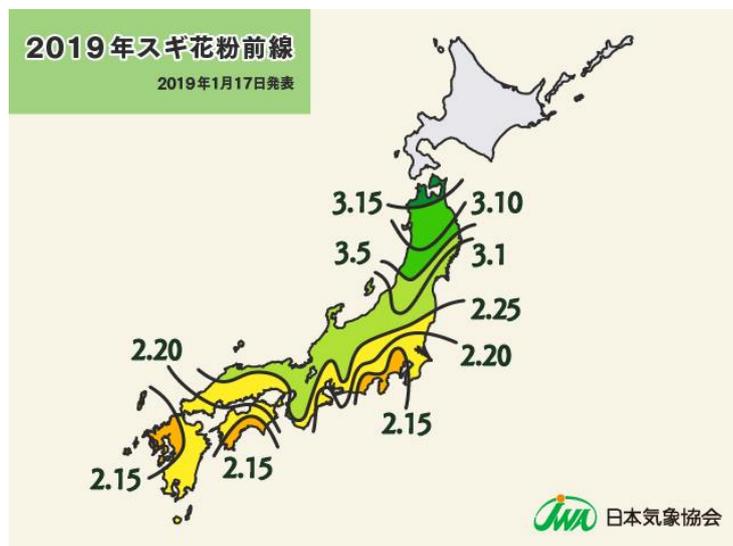
2. 2019年シーズンの飛散開始時期

スギ花粉の飛散開始は、関東から近畿、中国、四国地方、九州で、例年より5日ほど遅くなる見込みです。その結果、2月中旬に九州や四国、東海、関東地方の一部から花粉シーズンがスタートするでしょう。

2019年の1月から2月は、気温が北日本では、ほぼ平年並み、東日本は平年並みか高く、西日本は平年より高くなる予想です。2018年12月の気温が平年より高かったため、休眠が遅れた上、これから2月にかけての気温が高めで経過し、スギの雄花の休眠打破が遅れる見込みで、2019年春のスギ花粉の飛散開始は、東日本と西日本で例年より遅くなるでしょう。

スギ花粉は、飛散開始と認められる前から、わずかな量が飛び始めます。2月中旬に飛散開始が予測される地域では、1月のうちから花粉対策を始めるとよいでしょう。

※飛散開始日:1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した場合の最初の日



【花粉の種類について】

北海道 :シラカバ
その他 :スギ・ヒノキ

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い :前シーズン(例年)の200%以上
 多い :前シーズン(例年)の150%以上200%未満
 やや多い :前シーズン(例年)の110%以上150%未満
 前シーズン(例年)並 :前シーズン(例年)の90%以上110%未満
 やや少ない :前シーズン(例年)の70%以上90%未満
 少ない :前シーズン(例年)の50%以上70%未満
 非常に少ない :前シーズン(例年)の50%未満

前シーズン :2018年シーズン飛散量
 例年 :過去10年(2009~2018年)の平均値

【2018年夏の気象に関する言葉の説明】

平年 :1981~2010年の平均値

3. 日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は1990年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

花粉の元となる植物の育成には、前年夏(6月~8月)の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多く、雨の少ない夏は花芽が多く形成され、翌春の花粉の飛散数が多くなるといわれています。花芽は夏の早い段階で育つため、日本気象協会の花粉飛散予測では6月と7月の気象条件を特に重視して予測を発表しています。

日本気象協会の花芽調査では、スギやヒノキなどの植物に詳しい「植物のプロ」や、花粉の研究に長年携わっている学識者の協力を得ながら、その土地の気候や地形を知る「気象のプロ」による定点観測を重視しています。

